

◀ 体 験 記 ▶

「中国のある造船所」

株式会社 商船三井 本 田 理 稔

初夏の暑さが嘘のように若干涼しさも感じられた8月下旬、例年通りにやってくる台風、度重なる北朝鮮のミサイル発射の中、担当船が中国の造船所に同時に2隻入渠することとなり工事状況確認のため訪中しました。

中国・上海（虹橋）へは日本・羽田空港からの便が1日8便ほどあり、航空会社を選ばなければ結構便利です。

この造船所は揚子江沿い、南通の上流に位置し、上海・虹橋空港から車で高速に乗り2時間の場所に位置する江陰という街にあります。以前は交通事情が悪く、渋滞も頻繁にあり3～4時間かかった道のりでしたが、最近では空港、並びに駐車場、道路の整備により、早ければ2時間かからないことも。また高速道路は広く4車線の場所もあるほどです。

この江陰という街はあまり大きな街ではないものの、中国の優良企業がいくつか存在することで成り立っているようで、ビジネス中心であり、街はいつも整然としている。

ただ…まだマシではあるものの埃と大気汚染は他の中国の街と同じです。しかしながら昨年のサミット以降、かなり環境への規制が厳しくなったとのことで空の色も若干明るく感じています。

他の中国の造船所はかなり巨大なことはご承知の方が多いと思いますが、この造船所はそれらに比べるとコンパクトな部類とは言われるものの、広大な敷地に多くの人々、設備は少々古い感じはありますが船の数も多く、働く人々には活気溢れていました。この造船



造船所岸壁係留状況



造船所岸壁係留状況



新 造 船

所は新造船をメインに手掛けており、係留艀装が10隻、修繕船が10隻と大変に賑やかな様子でした。

この造船所とのかかわりは、小員が陸上勤務に就いたときから、まだ2年も経過していませんが、Staffは人当たり良く、担当監督、本船乗組員への気遣い等、今までの中国造船所の人々とはちょっと違う良い意味での印象でした。

当造船所での業務にあたり、生活拠点は江陰市街中心地に位置するHotelです。小員の滞在したホテルには中華、ウェスタン、多国籍料理のレストランがあり、周囲にも中華を始めビアガーデン等様々な飲食店が存在します。日本食居酒屋が1件ありましたが、最近つぶれたようです。ちょっと離れますが、日本食レストランのあるホテルもあります。

造船所への通勤は造船所所有の送迎バスを使います。約15分の道のり、道中は同じタイプのアパートが多く並び、また道沿いには数々の店が営まれ、造船所入り口では朝、昼、夕方には人が集まり飲食を楽しむ姿が見られます。ただし、夏の時期は日中40℃にもなる日が続き、人の姿も屋内へ…日本と同じです。ホテルには中国人はもちろん、フィリピン人、ギリシャ人、インド人などさまざまな人々が滞在、ここも同様賑やかな様子です。

昔と比べ設備、道具類の種類、数は多くなり、道具がなく作業が進まないといった風景は見られなくなっており、工場周囲にも修理屋さん、工具屋さんも多く集まりある程度の修理・工事には問題なく進む環境となり、工場内では人々が電動バイクで行き来し、また日本同様スマホを見ながら歩く人々が散見され、そして度々工事を中断させる極地豪雨も



バラシングテスト装置



ガバナー整備風景（代理店）



造船所から車で40分ほどにある部品作製工場

…当日の朝快晴、今日も暑くなると思っていたら揚子江下流に真っ黒な雲が現れ、30分経たない内にパラパラと、そしてあっという間に大雨となり、ところどころで作業中断の風景、作業員が雨をしのぐために船上、工場内



造船所から車で40分ほどにあるメッキコーティング工場



電動バイク



造船所から車で20分にあるLife Boat定期整備業者



日に数回の豪雨



船具屋さんの商品陳列棚

を走り回る風景はどの国も同じ状況です。

また、現場の工担・作業員含め女性の数・活躍が多くみられ、中国経済の繁栄と時代の変化、そして環境の変化をまじまじと感じました。

日本と比べ物価、人件費が安く、当然のように中国国内各造船所にさまざまな国から修繕船が集まりだし15年以上経った現在、技術力は向上していることは言うまでもないが、まだまだ安かろう悪かろうの場面が見られます。世界的にはまだまだ競争力のある中国造船所ですが、つぶれた造船所の話しもよく聞き、中国国内の造船所の競争も激しいとも聞きます。

聞くとところによると、この造船所でも賃金値下げとリストラが始まったとのこと、中国の経済繁栄に少し暗い影を感じました。